

AACアーティスト年鑑

2026



AACアーティスト年鑑 二〇二六 発行元 株式会社アーバネットコーポレーション 東京都千代田区霞が関三ー二ー五 霞が関ビルディング 三五階

相園顕
あないまみ
新井陽太
荒殿優花
井川彩子
魏洋昊
隗楠
遠藤由季子
袁方洲
大竹利絵子
大成哲
大柳友飛
小栗千廣
郭國隆
勝川夏樹
金保洋
亀永百恵
北川さところ
北川太郎
金俊来
小泉悟
洪詩楽
河野ハルナ
後藤宙
小見拓
佐野圭亮
白谷琢磨
進藤篤
鈴木万佑子
高梨麻梨香

高橋呼春
高畑雅一
竹本真理
千葉洸里
土井木蓮
戸矢万葉
中居瑞菜子
中澤瑞季
西毅徳
野村絵梨
平尾祐里菜
古川千夏
帆足枝里子
堀田光彦
堀園実
本郷芳哉
本田ゆうすけ
馬瑜蔚
松枝悠希
松本千里
三原航大
宮原嵩広
村上仁美
村越敬太
村田勇氣
山崎稚子
山田千晶
雷康寧
劉宇凡
渡辺紫音

ごあいさつ

「ART MEETS ARCHITECTURE COMPETITION」(AAC) は、2001 年より始まった学生限定立体アートコンペです。当社では、居住者にゆとりと遊びの空間を提供するため、自社開発したすべてのマンションのエントランスホールに彫刻や絵画などの芸術作品を展示し、ミニ美術館のような空間を創出してまいりました。

その活動の中で、日本では芸術を志す多くの学生がいる一方、作品を発表する場が限られ、卒業後も創作を続けることが難しいという現実を知りました。そこで、当社の取り組みを学生の皆さまに知っていただき、マンションのエントランスホールという新たな展示の可能性に気付いてほしいとの想いから、AAC を立ち上げました。

最優秀賞を受賞した学生の作品は実際にマンションのエントランスホールに常設展示されます。公共空間での展示という実績が、プロのアーティストとして活動する大きな自信と飛躍のきっかけになることを願い、コンペを続けてまいりました。おかげさまで AAC は 26 年目を迎え、これまでに延べ約 200 名の入賞者を輩出し、その中から多くの若手がプロとして活躍しています。AAC がアーティストの夢を実現する一助となっていることを大変誇らしく思います。

今回の冊子では、過去の実績者たちの現在の活動をご紹介します。彼らの成長の軌跡をぜひご覧いただき、次代を担うアーティストたちのさらなる挑戦を応援していただければ幸いです。
今後も当社は、本コンペを通じて若手アーティストの発掘・支援・育成に努めてまいります。

AAC 主催
株式会社アーバネットコーポレーション
代表取締役会長 兼 CEO 服部 信治



FOCUS

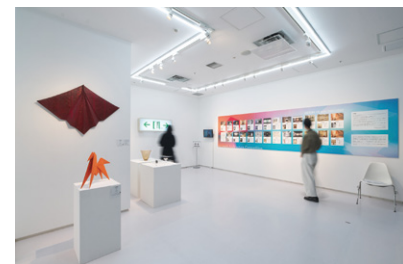
開催報告

AAC25 周年記念展を開催しました

渋谷ヒカリエで開催 来場者数は 3,000 人超を記録

2001 年から開催している学生対象の立体アートコンペティション「Art Meets Architecture Competition (AAC)」は、2025 年に 25 周年を迎えました。その節目を記念し、2025 年 10 月 17 日～ 26 日の 10 日間、渋谷ヒカリエにて「AAC25 周年 記念展」を開催しました。会場には、2001 年から 2024 年までの AAC 参加作家の中から 25 名の作品を展示。25 年間の歩みとともに、現在もさまざまな場所で活躍する作家たちの多彩な表現をご紹介します。

学生時代に AAC へ挑戦した作家たちが、その後も創作活動を続け、それぞれの道を歩んでいること。その軌跡を作品とともに感じていただける、25 周年ならではの展示となりました。



AAC25 周年記念展



25 年の歩みを、次の 25 年へ

AAC は、学生の自由な発想から生まれた作品を、実際の建築空間へつなげることを大切にしてきました。今回の記念展を通じて、作品だけでなく、作家、審査員、大学、協賛企業など、多くの方々とのつながりによって 25 年間の活動が続いてきたことを改めて実感しました。これまで築いてきたつながりを大切にしながら、これからも若い才能と建築、そして都市をつなぐ活動として、AAC の新たな可能性を広げていきます。



出展作家

あないまみ（ガラスアーティスト）
 陶 楠（漆造形作家）
 袁 方洲（アーティスト）
 大竹 利絵子（彫刻家）
 大成 哲（彫刻家）
 勝川 夏樹（ガラス造形作家）
 金保 洋（漆造形作家）
 金 俊来（漆工芸家）
 小泉 恒（現代美術家）

洪 詩楽（ガラスアーティスト）
 後藤 宙（アーティスト）
 佐野 圭亮（漆芸家）
 白谷 琢磨（彫刻家）
 土井 木蓮（彫刻家）
 中居 瑞菜子（漆芸家）
 平尾 祐里菜（金属造形作家）
 古川 千夏（七宝作家）
 帆足 枝里子（彫刻家）

堀田 光彦（彫刻家・鍍金家）
 堀 園実（彫刻家）
 本郷 芳哉（彫刻家）
 松枝 悠希（アーティスト）
 宮原 嵩広（彫刻家）
 村上 仁美（陶彫刻家）
 雷 康寧（アーティスト）

【AAC25 周年記念展 開催概要】

会期：2025 年 10 月 17 日（金）～ 10 月 26 日（日）
 時間：11:00 ～ 20:00
 場所：渋谷ヒカリエ 8 階、8/COURT・CUBE1.2.3
 〒150-8510 東京都渋谷区渋谷 2 丁目 21 - 1
 協賛：株式会社ミスカミ
 協力：小山登美夫ギャラリー・メグミオギタギャラリー
 企画協力：内田真由美（アートコーディネーター）

AWARDS

受賞情報

彫刻家 本郷芳哉さん 「国際彫刻ビエンナーレ台湾 麗宝大賞」で金賞を受賞

台湾で開催された国際的な彫刻コンペティション 第 7 回「国際彫刻ビエンナーレ台湾 麗宝大賞 (THE 7th LIH PAO SCULPTURE BIENNIAL AWARDS)」において、本郷芳哉さん (AAC2009 優秀賞) が金賞を受賞しました。第 7 回となる今回は、39 カ国から 195 作品が寄せられ、世界各地から集まった作品の中から、本郷さんの作品が高く評価され、金賞に選ばれました。
 本郷さんは、アルミニウムを素材とした彫刻作品を中心に制作を続けています。今回の受賞作品《空白－坐佇 The Void - ZACHO》では、素材と空間の関係を探りながら、静謐な佇まいの中に存在のあり方を感じさせる作品を展開しています。

本郷さんの現在の活動状況は 29 ページにも掲載しています



ガラス作家 勝川夏樹さん 「現代ガラス展 in 山陽小野田」 で大賞を受賞 第 7 回に続き、2 度目の大賞

ガラス造形分野で活躍する勝川夏樹さん (AAC2020 最優秀賞) が、第 10 回「現代ガラス展 in 山陽小野田」において大賞を受賞しました。受賞作品は「痕跡Ⅷ」。今回は 21 都道府県から 59 点の応募があり、57 点が審査対象となる中、作品の技法や独創性などが評価され、大賞に選ばれました。勝川さんにとって今回の受賞は、2018 年の第 7 回展に続く 2 度目の大賞受賞となります。
 2026 年 7 月 4 日～ 8 月 23 日には、おのだサンパーク（山口県山陽小野田市）で「第 10 回現代ガラス展 in 山陽小野田」が開催され、「痕跡Ⅷ」をはじめとする入賞・入選作品が展示されました。

勝川さんの現在の活動状況は 14 ページにも掲載しています



彫刻家 堀園実さん
「神戸六甲ミーツ・アート 2025 beyond」
準グランプリを受賞
六甲山の自然と呼応する作品「風や水を切る」が評価

彫刻家の堀園実さん（AAC2006 最優秀賞）が、六甲山を舞台に開催された「神戸六甲ミーツ・アート 2025 beyond」において、準グランプリを受賞しました。

受賞作品は《風や水を切る》。六甲山の自然や周囲の環境と呼応する作品として展示され、会場を訪れる人々が作品とその場の風景を一体的に感じられる表現が評価されました。

「神戸六甲ミーツ・アート」は、六甲山上の豊かな自然や歴史、文化とアートを組み合わせた芸術祭で、2025 年は「環境への視座と思考」をテーマに開催されました。堀さんの《風や水を切る》は、ROKKO 森の音ミュージアムに展示されました。

彫刻を通じて、素材そのものだけでなく、風景や周囲の環境との関係を探求してきた堀さん。今回の受賞は、作品単体の造形性にとどまらず、自然や場所そのものを作品の一部として捉える表現が評価されたものといえます。



堀さんの現在の活動状況は 29 ページにも掲載しています

漆作家 隼楠さん
「ロエベ クラフトプライズ 2026」
ファイナリストに選出

漆作家の隼 楠さん（AAC2021 最優秀賞）が、世界的な現代工芸の国際賞 ロエベ財団が主催する「ロエベクラフトプライズ（LOEWE FOUNDATION Craft Prize）2026」のファイナリストに選出されました。2026 年の同賞には、133 カ国・地域から 5,100 件を超える応募があり、その中から 30 名のファイナリストが選出されました。

作品「Knot-Loving」は、漆、牛革、麻を用いた作品です。牛革を立体的に成形して漆を染み込ませ、麻布や灰粉を重ねながら漆を施すことで、革そのものを硬化させ、立体的な造形へと仕上げています。伝統的な漆の技法を基盤としながら、異なる素材と組み合わせることで、現代的な工芸表現へと展開しています。

2026 年 5 月 13 日～6 月 14 日には、シンガポールのナショナル・ギャラリー・シンガポールでファイナリスト 30 名による展覧会が開催され、隼さんの作品も展示されました。



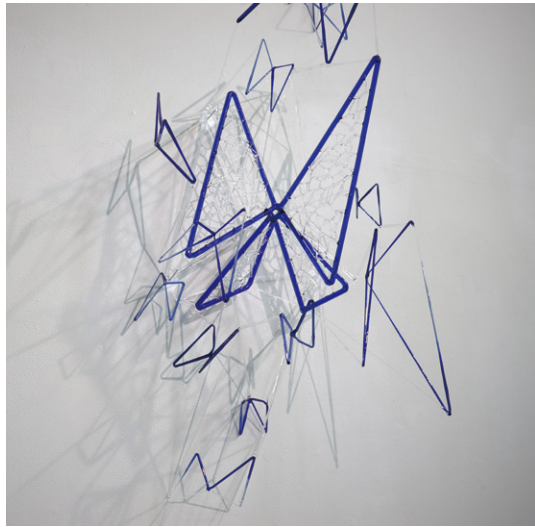
隼さんの現在の活動状況は 10 ページにも掲載しています

AAC アーティスト年鑑

過去の AAC において入賞歴があり、
現在も制作活動が続けているアーティストの
最新作や活動状況を掲載しております。（50 音順 / 敬称略）
なお、右上の QR コードは、アーティストの HP、
SNS へのリンクとなっております。
経歴や活動の詳細はそちらをご確認ください。

AIZONO KEN

相園 顕



AETHER BLUE (エーテル ブルー)

古典物理学で光の媒質とされた“エーテル”は、古代ギリシャでは天空の神を意味します。神秘的な青いガラスの蝶たちは幸運を運ぶ存在として、柔らかな光を受けて宙を舞い、空間に儚く鮮やかな生命感を添えます。光と響き合うこの作品が、見る人の心に静かな風を吹き込み、ふと立ち止まりたくなるような日常の余白を生み出すことを願っています。

ガラス（壁掛け）/ H2200 × W800 × D150（サイズ可変）/ 2025 年

1987 兵庫県神戸市 生まれ

2012 立命館大学 国際関係学部 卒業

American University,

Kogod School of Business

(Washington D.C.) 卒業

現 在 富山ガラス造形研究所 造形科 在籍



2024 AAC2024 入選

2025 グループ展「PARK」(富山市ガラス美術館 / 富山)

第 80 回 富山県美術展 入選

AAC2025 入選

グループ展「knock knock!」(富山市ガラス美術館 / 富山)

Pilchuck Glass School 給付型奨学金研修 (シアトル / 米国)

ANAI MAMI

あないまみ



MULTILAYER

鏡と板ガラスを重ね、削り磨く。

表面に生じるわずかな凹凸や歪みは、光の受け止め方を変え、素材に静かな揺らぎをもたらす。

ガラスの表面に生じた歪みは、像をずらし、重ね、ひとつの面に複数の世界を映し出す。

曖昧な像が共存する風景は、記憶や時間の層にそっと触れる感覚になる。

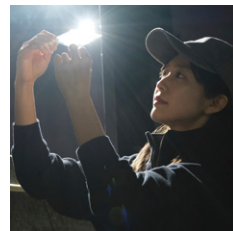
ガラス、鏡 / H600 × W400 × D85 / 2024 年

2014 多摩美術大学工芸学科ガラス専攻 卒業

2016 多摩美術大学大学院美術研究科工芸専攻ガラス領域 修了

2018 ガラスアクセサリブランド a.m.glass 立ち上げる

現 在 アート作品の展覧会、コミッションワーク、
アクセサリの販売を行う



2014 AAC2014 優秀賞

2019 ATAMI BAY RESORT KORAKUEN OCEAN SPA fuua 作品設置

2026 第 10 回現代ガラス展 in 山陽小野田 冠スポンサー田辺ファーマファクトリー株式会社賞

ARAI HINATA

新井 陽太



凜然と立つ

珪砂がガラスへと変わる過程は、自然界における変成や変質のプロセスと同様のものだと感じる。ガラスの姿に自然を重ね、人為的な働きかけをしていくことでガラスの中にある、自然と人工という相反する要素を繋ぐ。自然物の在り方を追求しながら人工物としてのガラスの表現が持つ特異性を強調し、「自然物と人工物の間（あわい）」を探っていく。

ガラス、アルミ箔 / H1100 × W550 × D550 / 2024 年

2000 茨城県 生まれ

2023 多摩美術大学美術学部工芸学科ガラスプログラム 卒業

2025 多摩美術大学博士前期課程工芸専攻ガラス研究領域 修了
富山ガラス造形研究所研究科 在籍



2023 令和 5 年度 茨城県芸術祭美術展覧会 工芸美術部門 大賞

2024 AAC2024 入選

令和 6 年度 茨城県芸術祭美術展覧会 工芸美術部門 準大賞

企画展「令和 6 年度 茨城県芸術祭美術展覧会」/ 茨城県近代美術館

企画展「HSINCHU CITY GLASS ART FESTIVAL」/ 新竹市玻璃工藝博物館

企画展「ART FAIR LAUNICA 2025」/ ぎふメディアコスモス

企画展「光の ART 展Ⅺ 集えー光の森へー」/ 史跡旧崇広堂

企画展「NA-utsuwa- 第一回 GROUP 展」/ ギャラリー STAGE 銀座

AAC2025 入選

ARATONO YUKA

荒殿 優花



10⁶⁴ (パーマネントのソラリ)

《10⁶⁴》シリーズは、「開かない壺」の構造を特徴としています。

存在することそれ自体の不思議と驚き

足すことも引くこともなく、はじめから満ちていた

光があたり、通り過ぎて、また光が差してくる

陶 / H360 × W328 × D312 / 2026 年

2016 東京藝術大学大学院 美術研究科 美術専攻（彫刻）博士後期課程 修了

2018 ~ 2024

科研費による研究「14 世紀後半～ 16 世紀末のミャンマー青磁の美しい色彩の再現：
原料と生産方法の研究」

現 在 陶を用いた作品を中心に制作

2013 AAC2013 入選

2014 AAC2014 入選

2021 「荒殿ゆうか作品展 & 公開制作 OPEN STUDIO」

(atelier ABC gallery / 東京都)

2026 保存修復工芸展 (東京藝術大学大学美術館 陳列館 / 東京都)

IKAWA SAIKO

井川 彩子



Honeycomb-Glass

七夕祭りに並ぶ紙飾りの構造をモチーフにしている。
でんぐりとも呼ばれるその飾りは、最初閉じている状態と、両端を持ち広げた状態では、見せる表情がまるで違う。
紙飾りを広げた時の、わっと心惹かれる瞬間と、窯の中で熱を加えたガラスが変容する瞬間とを重ねた。

ガラス / H340 × W550 × D330 / 2022 年
石川県能登島ガラス美術館収蔵

2002 筑波大学芸術専門学群美術専攻彫塑コース 卒業
2008 東京藝術大学大学院美術研究科工芸専攻ガラス造形研究室 修了
現在 京都精華大学特別任用講師

2007 AAC2007 優秀賞
2022 国際ガラス展・金沢 2022 審査員特別賞武田厚賞
第 5 回金沢・世界工芸トリエンナーレ 入選
2023 第 9 回現代ガラス展 in 山陽小野田 ホンムラ審査員賞

WEI NAN

隗 楠



表紙掲載作品

1994 北京生まれ
2024 京都市立芸術大学大学院 美術研究科
漆工領域 博士後期課程修了 博士（美術）取得

Knot-Flow

漆皮は、皮革を素地として漆を施す、飛鳥時代から伝わる技法である。私はこの技法を手がかりに、皮革がもつ柔らかさや伸びを生かし、素材の動きから生まれる新たな漆の立体表現を探索している。皮革を引き延ばし、折り、結ぶことで生まれる皺や張り、素材から導き出される形を生かし、漆を重ねながら造形として留めていく。そうした素材とのやり取りから生まれた「結」は、人と人、素材と時間、伝統と現代をつなぎ、そこから芽生える新たな生命や可能性を表している。

漆 / H330 × W210 × D190 / 2026 年

主な受賞歴

2021 韓国清州国際工芸コンペティション 特別賞
AAC 2021 最優秀賞
2024 Kyoto Art for Tomorrow 2024 — 京都府新鋭選抜展 — 京都新聞賞
2026 LOEWE FOUNDATION Craft Prize 2026 ファイナリスト

主な展覧会歴

2024 個展「隗楠 漆展 — Exploring —」葛屋書店（京都）
2025 「美の予感 2025 — Transposition —」高島屋（東京・大阪・名古屋・京都）
「Dimensions: Contemporary Chinese Studio Crafts」
ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館（ロンドン）
2026 「LOEWE FOUNDATION Craft Prize 2026 Finalists Exhibition」
ナショナル・ギャラリー・シンガポール（シンガポール）



WEI YANGHAO

魏 洋昊



身体尺一山のシンメンモク

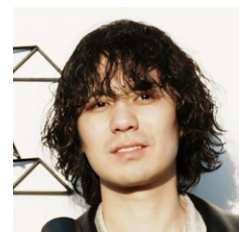
「山頂に到達した瞬間、視野は一気に広がる。山の真の姿を把握することはできない、それは、自分自身がその中心にいるからである。」

体験とは、身体を通じて経験すること。彫刻もまた同様である。展示空間にいるあなたは、どこからその体験を始めるのだろうか。

合板、角材 / H1350 × W1540 × D710 / 2025 年

1995 中国江蘇省蘇州市生まれ
2023 武蔵野美術大学 造形学部 彫刻学科 卒業
2025 武蔵野美術大学大学院 造形研究科 彫刻コース 修了

2022 第 43 期国際滝富士美術賞 優秀賞
2024 AAC2024 入選
2025 武蔵野美術大学卒業制作 優秀賞



ENDO YUKIKO

遠藤 由季子



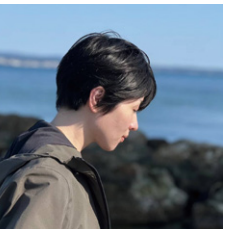
being# V

ガラスの性質によって現れる割れの現象は、ガラスが自身に刻む動きの軌跡であり、巡る自然や移り変わる万物と同じように、流れ続ける世界の 1 つであると考えます。

素材の性質が映すそうした表情を起点に、人の用途を離れ自然物に還るような有機的な表情を呼び起こす。

終わりの意識を超えたその先へと続く、ガラスの在り様に想いを馳せる。

ガラス / H195 × W320 × D245 / 2024 年



1998 福島県出身
2021 長岡造形大学造形学部美術・工芸学科クラフトコースガラス領域 卒業
2023 富山ガラス造形研究所 造形科 卒業
2025 富山ガラス造形研究所 研究科 卒業
金沢卯辰山工芸工房 入所

2023 第 9 回現代ガラス展 in 山陽小野田 市長賞
2024 AAC2024 優秀賞
2026 第 82 回金沢市工芸展 金沢市長奨励賞
2026 第 10 回現代ガラス展 in 山陽小野田 渋谷審査員賞

YUAN FANGZHOU

袁 方洲



Presence and Absence

「- Presence and Absence -」では人・物・自然の不可分な関係を可視化し、ガラス素材そのものの「意識」を通じて彼自身と現実のつながりを確立します。自身の哲学を通じて、人間の無意識な破片の再構築された立体と平面作品は、「中間体」シリーズによる探究を継承しつつ、新たな表現の境界線を示します。

ガラス / サイズ可変 / 2024 年

2018 清華大学美術学院 工芸学科ガラス専攻 卒業
日本ガラス工芸協会 ユース会員

2021 東京藝術大学大学院美術研究科 工芸専攻 陶芸（陶・磁・ガラス造形）
研究分野 修士課程 修了
東京藝術大学大学院美術研究科 工芸専攻 陶芸（陶・磁・ガラス造形）
研究分野 博士号取得

2021 AAC2021 優秀賞
個展：虚実体 The nonentity within the entity（デカメロン 東京）
個展：中間体 Intermediary compound（Tokyo International Gallery 東京）
2022 KUMA EXHIBITION 2022（ANB Tokyo 東京）
ANB Open Studio vol.1（ANB Tokyo 東京）
第 15 回 大分アジア彫刻展（朝倉文夫記念館文化ホール 大分）
2023 無の反対側 Presence and Absence（ars gallery 東京）
個展：くろの結界 The boundary of black（kuma gallery 東京）
ARTISTS' FAIR KYOTO 2023（京都文化博物館 京都）
2024 個展：「HETEROTOPIA」（STREET DREAMS STUDIOS TOKYO 東京）

OTAKE RIEKO

大竹 利絵子



どこかの子

真鶴町に設置された彫刻です。

沖を行く船や家々の明かり、無数の光が輝いています。

この彫刻も、ひかり続けるものであってほしいと願い制作しました。

小松石 / H1485 × W450 × D450 / 2020 年

1978 神奈川県生まれ
2002 東京藝術大学美術学部彫刻科 卒業
2004 同大学院美術研究科彫刻専攻 修了
2007 同博士課程を修了
現 在 東京藝術大学美術学部彫刻科准教授

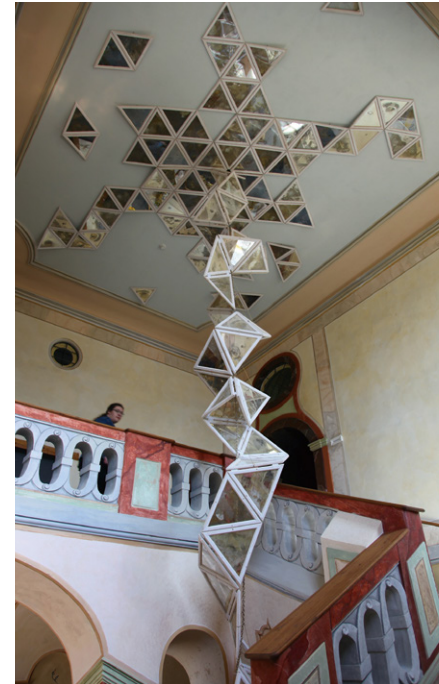


2006 AAC2006 入選
2012 個展「たぶん、ミミ」（小山登美夫ギャラリー、東京）
2015 個展「Way in, or Out」（8/ ART GALLERY/ Tomio Koyama Gallery、東京）
2021 個展「あなたはどこから来たの？」（小山登美夫ギャラリー、東京）
2023 個展「Hanako」/ 森岡書店 /（東京）
グループ展「手でふれてみる展覧会」/ ギャラリー OGU MAGU /（東京）

少女や鳥鹿などを主なモチーフとして、クスノキやヒノキ、カツラなどを素材とする無彩色の木彫作品を制作する。木の生々しさや美しさを損なわないよう、素木仕上げの手法を貫き、勢いとリズム感のある豊跡で表面を仕上げる。2022 年には AAC2022 の審査員を務める。

OHNARI TETSU

大成 哲



reflection_tyne

チェコ、西ボヘミア地方にある Tynece 城。300 年の歴史を保つ城では、優雅なことだけではなく、地政学的問題や権力闘争など様々なことがありました。時や光、ものが流れて移り変わる様を、抽象的な幾何学形態が、鎖のように連続するインスタレーション作品です。

<https://www.youtube.com/watch?v=vMS4gSHuXvk>

鏡、木、ワイヤー / H1300 × W600 × D600 / 2024 年

1980 東京都生まれ
2004 日本大学芸術学部 卒業
2005 ブラハ美術アカデミー留学
2008 東京藝術大学大学院修士課程 修了
2022 ヤン・エヴァンゲリスタ・ブルキニェ大学
（UJEP）芸術デザイン学部 博士号取得



2001 AAC2001 優秀賞
2020 AAC2020 審査員として参加
日芸、東京藝大卒業後、ポーラ財団と文化庁の在外研修制度に採択され、チェコのブラハに海外研修。現在もブラハを中心にヨーロッパで制作活動中。2020 年には AAC2020 の審査員を務める。

YUHI OYANAGI

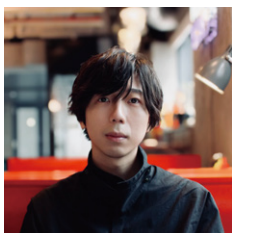
大柳 友飛



Implosion

建築を内側からひらくインテリアはいかに設計可能か？という問いをテーマにかかげ、それに対する応答として implosion= 内破をキーワードに構想・制作されたインスタレーションです。

インスタレーション 2025 年



2017 福井工業大学工学部デザイン学科 卒業
2022 明治大学大学院理工学研究科 建築・都市専攻 建築学系 修了
空間デザイン設計事務所に所属しながら、デザイナーとしても活動

2019 AAC2019 / 入選
2020 第 21 回 CS デザイン賞 学生部門 / 銀賞
2021 Competition Open Call: A Bench in Venice / ファイナリスト
2023 サンゲツデザインアワード 2023 / 入賞（ファイナリスト賞）
2024 JID アワード 2024 ネクストエイジ部門 / 金賞
サンゲツデザインアワード 2024 / 入賞（ファイナリスト賞）

OGURI CHIHIRO
小栗 千廣



すみか

私は普段、場を持つ生き物への畏怖を、土という素材を用いて表現しています。「すみか」では、霊的な存在や魂を感じさせる「場」や、生き物が残した痕跡に着目し、形にしています。

この作品を通して、自然を意識するきっかけや場を生み出し、自然や環境への祈りにつながるものになればという思いを込めています。

焼きもの / H1450 × W800 × D500 / 2025 年

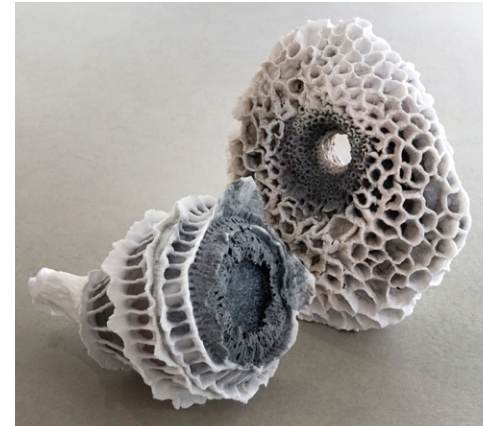
2004 岐阜県生まれ

2027 金沢美術工芸大学彫刻専攻 卒業

- 2024 「三世代展」開催（岐阜、セラトピア土岐）
「小さな展覧会」開催（金沢、上黒丸商店）
- 2025 グループ展「biotop」開催（金沢、喫茶コクリコ）
AAC2025 入選
金沢彫刻祭 2025 展示及び彫刻祭委員長を務める
アーツアンドフクミツ 展示（富山、旧南砺福光高校）
- 2026 関ヶ原石材株式会社 石彫支援プロジェクト 最優秀賞受賞



KATSUKAWA NATSUKI
勝川 夏樹



痕跡Ⅳ

化石や卵殻、種子の殻、脱皮殻など、生物が残した形には、そこにあった生命の時間や変化の記憶が刻まれています。近年の制作では、そうした痕跡を手がかりに、生命の連続性や移ろいを表現しています。

ガラス / H550 × W400 × D4000 / 2026 年

- 1991 大阪生まれ
- 2014 近畿大学 文芸学部 芸術学科 卒業
- 2016 東京藝術大学 大学院 美術研究科 修士課程 修了
交換留学（Anadolu University/ トルコ）
- 2019 North Lands Creative（レジデンス / イギリス）
- 2021 東京藝術大学 大学院 美術研究科 後期博士課程 修了
- 2021 ~ 2025 近畿大学 文芸学部 芸術学科 非常勤講師
- 2025 ~ 現 在 筑波大学 芸術系助教

- 2016 「Stanislay Libensky Award」大賞（チェコ）
- 2018 「第 7 回現代ガラス展山陽小野田 2018」大賞
- 2020 AAC2020 最優秀賞
「第 8 回現代ガラス展 in 山陽小野田」市長賞
- 2021 「東京藝術大学 大学院美術研究科博士審査展」野村美術賞
- 2025 「第 17 回 新竹市金玻璃賞」第 3 位（台湾）
- 2026 「第 10 回現代ガラス展 in 山陽小野田」大賞
「新竹美展 Hsinchu Art Exhibition」竹塹獎（Grand Prize）（台湾）



KUOKUOLUNG
郭 國隆



動き中の流れ

木目の流れるような模様、異なる曲面の流れ、そして渦や泡、煙といった流動的な現象を利用し、私自身の「流動」に対する想像から構想した世界観を表現しました。

3D プリンティングでの造形を活かすために、木材では表現しづらい複雑な三次曲面造形で、軽やかさ・空気感を感じる造形にしました。

木材、樹脂 / H3 × W200 × D200

- 2023 武蔵野美術大学造形研究科工芸工業デザインコース 修了
- 現 在 東京藝術大学美術研究科工芸専攻素材造形木工領域博士後期課程在籍中

- 2020 「食・飾・触 - おかりや展」おかりや銀座 / 東京
- 2023 ACT 企画「アジア圏の留学生作家と日本人作家の交流企画展 neophyt」
@ The Artcomplex Center of Tokyo/ 東京
「秋岳賦 硝子・木工・金工・漆芸・陶芸」グループ展 / 東京
東京藝術大学工芸科「銀茶展」 / 東京
「身体尺」東京藝術大学木工研究室展 / 東京
- 2024 ACT 企画「アジア圏の留学生作家と日本人作家の交流企画展 neophyt」
@ The Artcomplex Center of Tokyo/ 東京
AAC2024 入選

KANEYASU HIROSHI
金保 洋



Emergence25-1

漆は表層を彩る塗料や接着剤として用いられていますが、本作ではその造形的な振る舞いに着目しています。木のウロに見られる、成長や時間の経過によって生じた空洞から形態を着想し、漆が石膏に浸透しながら色彩を生成します。工芸的自然という概念を通して、自然と人為の境界に生じる、漆が本来備える自然性にアプローチしています。

漆、石膏、麻布 / H450 × W300 × D180 / 2025 年

- 1991 東京都生まれ
- 2020 金沢美術工芸大学大学院 美術工芸研究科
博士後期課程 修了 博士（芸術）取得
- 現 在 金沢美術工芸大学 工芸科講師

- 2012 AAC2012 優秀賞
- 2023 「漆風怒涛〜現在を駆け抜ける髹漆表現〜」石川県輪島漆芸美術館 / 石川
- 2024 「Loewe Craft Prize 2024」Palais de Tokyo/paris
「漆表現の現在 2024 - 漆へのまなざし -」金沢 21 世紀美術館ギャラリー A / 石川
- 2025 「Contemporary Japanese Lacquers」Mingei Gallery/Paris
「Emerge/Unfold」日本橋高島屋美術館 X / 東京



KAMENAGA MOMOE

亀永 百恵



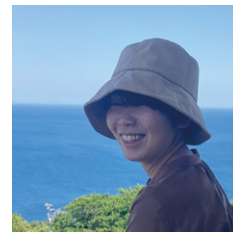
つつむかたち

透明なガラスの塊を紙で包み、形の表面部分のみを塗装し浮かたさせています。透明なガラスの持つ光や存在感を可視化し、素材のエネルギーをもっと身近に感じて欲しいと思い制作しました。

ガラス / H150 × W200 × D80 / 2022 年

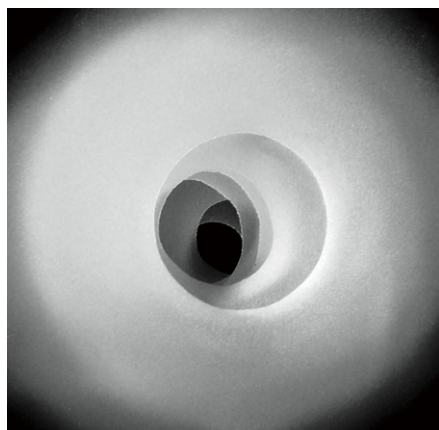
1992 富山県生まれ
2015 金沢美術工芸大学 彫刻科 卒業
2017 富山ガラス造形研究所 造形科 卒業
現 在 富山県・石川県を中心に年2〜3回グループ展等の展覧会に参加。
ガラスを使った立体や平面作品の制作を行う。

2016 AAC2016 入選
2022 グループ展「SIX vol2」小矢部市
個展「Shape」砺波市
2023 グループ展「海の幸あれ」高岡市
2024 グループ展「第13回宝円寺ガラス展」金沢市



KITAGAWA SATOKO

北川 さとこ



孔を重ねる #1

自然界で生まれる造形物の美しさや不思議さに強く惹かれてきました。古い建築物に生じる錆やひび割れなど、自然の力によって人工物に偶然に生じたかたちにも魅力を感じています。これら自然界で無作為にできた造形物と、炉の中でガラスが熱によりかたちを変え出来上がる造形物には共通する魅力があると思います。板ガラスを熔解・変形させることで、作為的な素材の中に無作為な造形を共存させ、熔ける形そのものが自然の造形として立ち現れることを試みながら制作しています。

板ガラス / H200 × W200 × D80 / 2025 年

京都市生まれ
農学部にて植物病理学専攻、大学卒業後外資系製薬会社勤務
退職後、富山ガラス造形研究所造形科 卒業
大阪芸術大学工芸学科ガラス工芸コース 卒業
大阪芸術大学大学院博士課程前期芸術制作専攻 2026年3月 修了
Corning museum of glass the studio 2022 scholarship (米国) 取得参加

2024 24日本のガラス展 公募展 入選
伊丹国際クラフト展「酒器・酒盃台」入選
2025 AAC2025 入選
2026 オーディオテクニカ学生クラフトコンペティション 金賞



KITAGAWA TARO

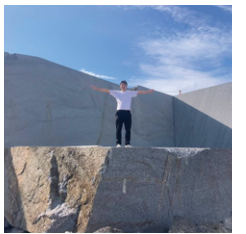
北川 太郎



静けさ

在ることにより、より自然が美しく感じられるような作品を目指した。

ブルーパール / H1000 × W1800 × D1000 / 2026 年



2007 ~ 2010
文化庁新進芸術家在外研修員
(三年派遣員) ベルギー
2023 文化庁新進芸術家在外研修員
(短期派遣) イタリア

2006 AAC2006 優秀賞
2022 DOMANI・明日展 (国立新美術館 / 東京)
「これってさわれるのかな?—彫刻に触れる展覧会—」(神奈川県立近代美術館鎌倉別館 / 神奈川) 特別出品
2024 個展「時のかたち」/ 兵庫県立美術館
2025 瀬戸内国際芸術祭 2025 (屋島 / 香川)
2026 Artist in Residence at the Spacehouse Himalayas (インド)
Art Rhizome KYOTO 2026 (京都)
Symposium Norge'26 (ノルウェー)

KIM JUNRAE

金 俊来



Radiant

小さな色彩が互いに出会い、重なり合いながら一つの世界を生み出していく。個々の色彩は群れを形成し、新たな色と密度を生み出す。色の反復と動きを通して、完結することなく絶えず生成され続ける状態を表現している。

漆 / H800 × W800 × D50 / 2025 年

1979 韓国生まれ
2007 韓国・建国大学校 美術学部 絵画学科 卒業
2015 京都市立芸術大学大学院 美術研究科 修士課程 漆工領域 修了 (修士号取得)
2019 京都市立芸術大学大学院 美術研究科 博士 (後期) 課程
漆工領域 修了 (博士号取得)
2019 ~ 2021 京都市立芸術大学 美術学部 漆工専攻 非常勤講師
現 在 漆工房「漆可道」代表

2016 個展開催 (ギャラリーアーティスロング、京都)
AAC2016 入選
2017 AAC2017 最優秀賞
2023 城南市主催企画展、韓国



SATORU KOIZUMI

小泉 悟



だれかの自画像

逞猛なものから脆弱なものまで、自然の中で特性を生かして生きる様々な動物や想像上の生き物と、社会の中で生きる人間の姿を調和させ、1つの命を生み出します。

それは職場や家庭、ソーシャルメディアで次々に役割や姿を変えて振る舞いながら、今を生きる現代人のポートレートなのかもしれません。

楠に彩色 / H660 × W255 × D240 / 2024 年

1983 宮城県生まれ

2007 沖縄県立芸術大学 彫刻専攻 卒業

2009 沖縄県立芸術大学大学院 造形芸術研究科 彫刻専修 修了

2007 AAC2007 優秀賞・審査員特別賞

【個展】

2017 Animal Human, Haw contemporary / カンザシティ, アメリカ
作品達の家で - けものすみか -, MEGUMI OGITA GALLERY / 東京

2022 Spectral, MEGUMI OGITA GALLERY / 東京
Disney Collection by Satoru KOIZUMI / マカオ、中国

2023 Disney Collection by Satoru KOIZUMI / 台北、台湾 / 上海、中国 / バンコク、タイ
100 年後の自画像, AKI Gallery / 台北、台湾

2024 Disney Collection by Satoru KOIZUMI / 香港、中国
その他グループ展多数

HONG SHILE

洪 詩楽



Chloroplast

本作は、緑から透明に移ろうガラスに光をそっと閉じ込めた。揺れ、折れ、透ける光の中に、小さな命の息づきを感じる。緑は力、透明は柔らかさ。光と物の境界がふわりと曖昧になり、目に見えるものと見えないものが交わる、光の流れの瞬きとして残す。

ガラス / H150 × W200 × D200 / 2023 年

展覧会

2023 「翹」みなとみらいギャラリー ギャラリー A
「とくめい」 / 「氷菓」(二人展) MADO Labo
“华彩初凝 NatiONA Student GLASS Art Exhibition”
QinhuANGDAO GLASS Museum
第 58 回神奈川県美術展神奈川県民ホールギャラリー
第 58 回神奈川県美術展鎌倉芸術館ギャラリー
Charity BieNNALe 2023 Fei Art MUSEUM YOKOHAMA
2024 卒業制作展・大学修了制作展 tama art university
卒業制作展・大学修了制作展 spiral

受賞歴

2023 神奈川県美術展 工芸部門 美術奨学会記念賞
AAC2023 最優秀賞

1999 北京市 生まれ

2020 東洋美術学校 グラフィックデザイン学科 卒業

2024 多摩美術大学 美術学部工芸学科ガラス専攻 修了

現在 多摩美術大学大学院 美術研究科工芸学科ガラス専攻 在学

KONO HARUNA

河野 ハルナ



らしきもの

人は常に演じて生きていると考えています。

ヒーローなどを演じるスーツアクターのように、様々なスーツを着て、本当の自分を隠して生きているのではないのでしょうか。

この作品は、ネコのように見えますが背中にファスナーがついています。動物からふとしたときに、中に人がいるのかな、と勘違いしてしまうほど、人間らしさを感じる瞬間があります。

めまぐるしく変化する現代社会において、自由を求めて人がネコを演じていてもおかしくないかもしれません。

目の前のネコは本物ですか、らしきものですか。

テラコッタ・ファスナー / H300 × W350 × D250 / 2018 年

2013 福島大学人間発達文化学類スポーツ・芸術創造専攻 卒業

2015 福島大学大学院人間発達文化研究科地域文化創造専攻 修了

2013 AAC2013 入選

2014 第 68 回福島県総合美術展覧会 福島県美術賞 福島民友新聞社長賞

2015 「あたらしいAIZU の美術展」
第 89 回国展彫刻部 新人賞 (《食食》)

2016 「あたらしいAIZU の美術展」

2019 「脈 — FUKUSHIMA」

2022 「アートでつなごう 3.11 をこえて福島展」



GOTO KANATA

後藤 宙



Shapes DUNNO -1-

普遍的な規格や比率から出発し、知らないかたちを導く。その過程においてできるだけ元の形や比率などが発する要請に耳を傾け、その要請が自分の恣意と拮抗するようにバランスしながらかたちを変化させていく。この繰り返しの中で変容する形の中に、ある種のアウラのようなものを見出せた時に最終的なかたちとしてマテリアルに定着させる。そのようなプロセスでこのシリーズを制作しています。

鉄、糸 / H1140 × W910 × D50 / 2023 年



2017 AAC2017 優秀賞

個展

2023 DUNNO (MODULE Roppongi / 東京)

2025 KANATA GOTO Works (and Svolta / 東京)

主なグループ展

2024 Drawing from practice 実践からの引用 / ドローイング (ソノアイダ日本橋 #TMA / 東京)

2025 Diffusion of Nature (GASBON Metabolism / 山梨)

コミッションワーク

2021 ~ 2023 メセナアワードトロフィ制作

1991 東京生まれ

2018 東京藝術大学大学院美術研究科
先端芸術表現専攻 修了

KOMI TAKU 小見 拓



人態 - 2

生きている物をつくるにはどうしたらよいのだろうか。体の内側に目を向けていくと様々な構造体によって構築されていることが分かってくる。それらの部分を取り出して拡大し、つくってみて、集めて、再構築することでここに現れるのではないかと試みている。

黒御影石 / H960 × W880 × D960 / 2021 年



- 1991 新潟県生まれ
- 2013 長岡工業高等専門学校電子制御工学科 卒業
- 2017 武蔵野美術大学彫刻学科 卒業
- 2019 東京藝術大学大学院彫刻専攻 修了

- 2017 AAC2017 入選
- 2019 個展開催 (ギャラリー SOL)
- 2020 シンパ・アロープロジェクト - 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い活動が制約されているアーティスト応援企画 選考通過
- 2023 「METORO ART PASSAGE」(メトロ銀座ギャラリー / 東京)
- 「体を組む」個展 (スペースコウ / 東京都)
- 「<石の彫刻>展」グループ展 (ギャラリーせいほう / 東京都)

SHIRATANI TAKUMA 白谷 琢磨



神馬

折り紙をモチーフにした作品は、どこか別の世界を予感させるような存在感を意識しています。神仏のような堂々とした佇まいに救われるような気持ちで制作しています。

檜 漆 / H210 × W260 × D60 / 2025 年



- 1994 佐賀県生まれ
- 2019 東京藝術大学美術学部彫刻科 卒業
- 2021 同大学院美術研究科彫刻専攻 修了
- 2017 年より 2023 年まで「D.B.Factory」にて彫刻家 大森暁生氏のアシスタントスタッフを務める。

- 2019 AAC2019 最優秀賞
- 2024 個展「HORI ORI INORI」/ ギャラリーマルヒ
- 白谷琢磨 - 袴鶴 - / SEIZAN GALLERY TOKYO 凸
- 第7回 Brilliart Art Award 大賞受賞
- 2025 個展「Departure - 冒険の出発地点 -」/ Hyatt Centric Ginza Tokyo
- 白谷琢磨展 U M A/DiEGO-omotesando

SANO KEISUKE 佐野 圭亮



乾漆玉虫小筐「Phenomena IV」

センス・オブ・ワンダー。水滴が重力によってころころと葉っぱの上を次から次へところろ転がり落ちる様子。あくせくする生活の中で現代人がつい見失いがちな自然によってもたらされる美しき「不思議」。目の前の不思議を素直に感じ取れる感性は時代の変化を生き抜く

ための一つの知恵である。

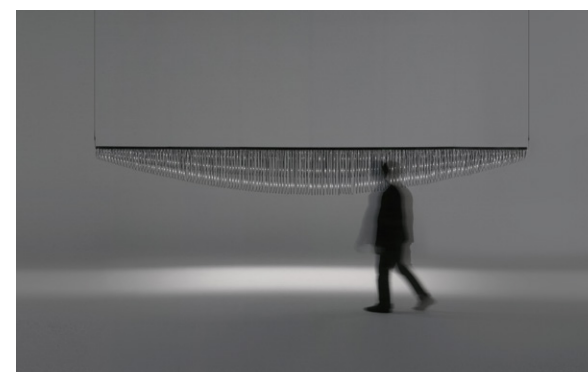
漆、麻布、玉虫、金、銀 / H70 × W80 × D60 / 2026 年



- 2018 AAC2018 優秀賞
- 2022 The Five Directions: Lacquer Through East Asia / ロサンゼルスカウンティ美術館 (LACMA)
- 2023 藝神展 / 東京芸術大学アートプラザ
- KANSEI アート展京都 洛宙 [希望の宙] / 京都泉涌寺
- KOUGEI ART FAIR2023/ ハイアットセントリック金沢
- 2024 伊藤ミナ子・加藤 萌・佐野圭亮・千葉 功 漆芸展「漆芸の地平の彼方へ」/ ギャラリー田中 銀座 生命の賛美展 / Enishira Stream Gallery 金沢
- [作品収蔵] 荒川区立図書館ゆいのもりあらかわ 荒川区 デンバー美術館 Denver Art Museum (DAM) USA
- 2025 佐野圭亮 漆芸展 ギャラリー祇園美乃史
- 和光歳時記 / 銀座和光
- 2026 超越する漆 / 日本橋三越
- 美微比展 / 東京美術倶楽部

- 1994 群馬県高崎市生まれ
- 2017 東京芸術大学美術学部工芸科 卒業
- 2020 同大学大学院 修了
- 群馬県高崎市を拠点に制作活動を開始、現在に至る。
- 2025 高崎駅近くにアトリ工兼事務所を移転

SHINDO ATSUSHI 進藤 篤



LIMINAL

空間にささやかな輝きを添えるアートワーク。サイズの異なるリング状の金属製パーツが左右一列に連なり、空間に曖昧な輪郭を描き出す。壮大なスケールのグラデーションと、時折見える微かな輝きが、空間と時間を超えた風景やシンボルを想起させ、静かな引力が生まれる。

鉄、アルミ、LED / W6000 × D600 × H600 / 2024 年



- 1991 千葉県生まれ
- 2016 東京藝術大学大学院 修了
- 現在 インテリアデザイナーとしてホテル・オフィス・商業空間等のデザインに携わる傍ら、個人プロジェクトでは、より無垢な眼差しを起点に、空間・インテリアオブジェクト・アート作品等、多岐にわたる作品を発表。素材の新たな可能性と、根源的な美を探索。

- 2014 AAC2014 優秀賞
- 2020 Kukan Design Award, Japan
- 2023 SaloneSatellite 2023, Italy
- Young Designer Award, Japan
- 2024 ELLE DECOR Young Japanese Design Talent, Japan
- SaloneSatellite 2024, Italy
- 2025 SaloneSatellite 2025, Italy
- グループ展「DESIGN with FOCUS デザイナーの冒険展」出展 (富山県美術館 / 富山県)
- 2026 iF Design Award, Germany

SUZUKI MAYUKO

鈴木 万佑子



Indication

外界と空間を隔てる窓ガラスは、ときに時間軸の境界をぼかしてつなぐ交点となる。
降りしきる雨は、ガラス一枚隔てて部屋の静寂を際立たせる。
ひとの時間の層に、おおらかな自然の時間の層が重なる。
時の流れの交錯は現在からの隔絶と穏やかな孤独感をもたらす。
削り出したガラスが醸す僅かな緊張感を、日々の際間に佇む澄んだ空気に重ねる。

ガラス / 左から : H150 × W340 × D80 / H640 × W160 × D100 / H100 × W250 × D180 / 2024 年

2002 栃木県 生まれ
2025 多摩美術大学工芸学科ガラスプログラム 卒業
2026 富山ガラス造形研究所研究科 在籍

2024 第16回'24日本のガラス展 入選
2025 AAC2025 優秀賞
KOGEI Art Fair Kanazawa 2025 出品
2026 KOBE ART MARCHE 2026 出品



TAKAHASHI KOHARU

高橋 呼春

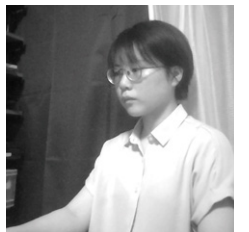


一線

私たちは自然を完全に制御することはできない。
だからこそ、人の意思と自然は制作過程で一体となり、
作り手に新しいかたちをもたらす。
漆と木材と自分の手が呼応するよに、かたちを探り、触感を求める。
そうして生まれた漆黒の鏡面は、永遠に連なる時間の中で、
反射と吸収を絶えず繰り返す。
私たちが見ている実在と非実在に揺らぎを与え、境界を曖昧なものにする。
クリ、漆 / H90 × W6030 × D50 / 2023 年

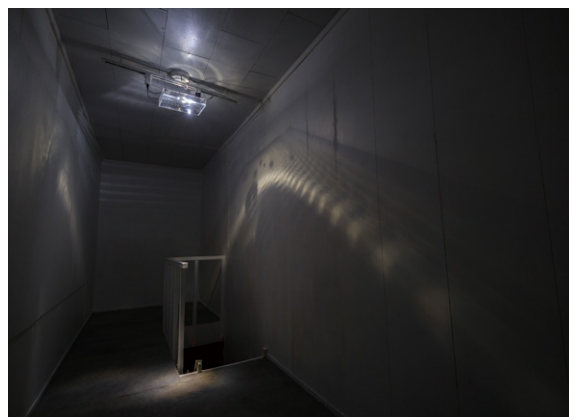
2021 筑波大学芸術専門学群 卒業
2023 筑波大学大学院人間総合科学研究科博士
前期課程芸術専攻クラフト領域 修了
現 在 石川県立輪島漆芸技術研修所普通科髹漆 在籍

2023 令和4年度筑波大学大学院博士
前期課程芸術専攻 優秀作品賞
AAC2023 入選
2024 グループ展
「URUSHI TAMAGO PROJECT WAJIMARU」
(石川県立美術館広坂別館 / 金沢)
2025 AAC2025 入選



TAKANASHI MARIKA

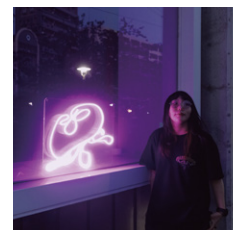
高梨 麻梨香



Oscillation

《oscillation》は、福島沿岸で採取した低周波の海鳴り（約60Hz）が水面に作用し、微細な共振を生み出すことで光影を宴容させ、鑑賞者の知覚内で絶えず更新される動的な空間を生成するサウンド・インスタレーション。

サウンド・インスタレーション / サイズ可変 / 2026 年



2014 秋田公立美術大学 美術学科 入学
2020 秋田公立美術大学 美術学科 景観デザイン専攻 卒業
秋田公立美術大学大学院 複合芸術研究科 入学
2023 秋田公立美術大学大学院 複合芸術研究科 修了

2022 AAC2022 入選
2025 グループ展「アライブ！」(BankART Station / 神奈川県)
「糸島国際芸術祭 2025 分解の祝祭」(稲荷拝殿 / 福岡県)
「黄金町バザール+上大岡バザール 2025 『通過中 | We Meet Along the Way』」
(黄金スタジオ / 神奈川県)
「Art Fair Beppu2025」出展 (ビーコンプラザ / 大分県)
2026 個展「Resonance : 60.1Hz」(Gallery SOAP、福岡県)

TAKAHATA MASAKAZU

高畑 雅一



北浜のキラメキ

大阪市北浜の証券取引所近隣の超高層マンション 1F エレベーターホールに日本庭園の枯滝をイメージして頂部を 30 度にカットした 60mm 角のステンレス角パイプ 27 本を 3 列の階段状に構成した。部分毎に表面仕上げを変え周囲の風景を映り込ませる事で 5 列のパイプの構成であるかのように「錯覚」させる立体のエッシャーと言える作品である。

ステンレス / H2937 × W850 × D400 / 2018 年

2021 大阪市立大学大学院 学術博士号取得

1999 WINSOR&NEWTON 国際絵画コンクール 日本代表
2000 国際連合郵政局西暦 2000 年記念切手絵柄採用
2006 日タイ交流勸業芸術勲章 受勲
世界芸術平和貢献賞 (ロシア共和国) 受賞
2017 AAC2017 入選
2018 AAC2018 入選
2019 AAC2019 入選
2022 ボローニャ 1000 年 芸術キング賞 受賞
2023 ルクセンブルク芸術賞コンクール芸術功労証書
(ルクセンブルクピナコテークより)
日本芸術院賞新設 80 周年記念「日本芸術最高賞」 受賞



TAKEMOTO MARI

竹本 真理



35.690 139.700 35m

「空間と自己の関係性」をテーマに、建築的な要素を感じさせるインスタレーション作品およびメッシュの布地や角材といった素材を用いた幾何学的抽象の彫刻を制作。

作品を富士山や九州やベトナム・ホーチミンなどロケーションを移動して展示する試みを実施。

ミクストメディア / 可変 / 2025 年

1977 佐賀県唐津市生まれ

2012 桑原賞

2013 AAC2013 入選



CHIBA HIKARI

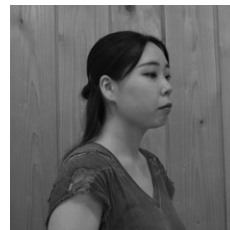
千葉 洸里



redrawing series-10

紙に描いたドローイングの線は、私の運動の証そのものです。
描いた線の軌跡を、何度も何度も目でなぞりながら土を積み上げていきます。
私の手の動きに呼応するように少しずつ土が形を伴って立体となる。
それは土でドローイングをしているようにも思えます。
その新しい線の形に出会うために、私は今日も軌跡をなぞる。

陶 / H480 × W600 × D490 / 2024 年



1996 東京都生まれ

2019 多摩美術大学 美術学部 工芸学科
陶専攻 卒業

2021 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 博士
前期課程 芸術専攻 クラフト領域 修了

現在 埼玉県にて制作活動中

2020 AAC2020 入選

2021 令和 2 年度 筑波大学大学院 博士前期課程 芸術専攻
優秀作品賞 受賞

2022 第 4 回いりや KOUBO 準大賞 受賞

2023 第 4 回いりや KOUBO 準大賞者作品展 いりや画廊 GALLERY IRIYA / 東京都

2024 壁 11 m2 の彫刻展 #08 いりや画廊 GALLERY IRIYA / 東京都

個展「軌跡をなぞる」いりや画廊 GALLERY IRIYA / 東京都

2025 「THE HEADLINERS 2025 - 爆誕! セラミック・スーパーノヴァ」茨城県陶芸美術館 / 茨城県

個展「反復と往復」gallery neo / Senshu / 茨城県

DOI MOKUREN

土井 木蓮



こま兄弟 阿・咩

150 年の歴史を紡ぐ「土川商店」での個展で発表した作品。人々が行き交うこの温かな空間に潜む、目に見えない守護獣や狛犬たちの気配を形にした大理石彫刻です。

大理石、水晶 / H600 × W700 × D220、H650 × W600 × D220 / 2026 年

1989 奈良生まれ

2017 東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻 修了

2018 東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻学研究生修了

現在 岐阜県関ヶ原町を拠点に活動

2017 AAC2017 優秀賞

東京藝術大学修了制作展 首席買い上げ賞

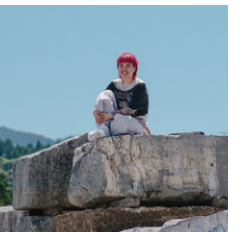
2018 和歌山県濱宮神社天皇陛下ご即位記念彫刻制作、設置

2019 和歌山県紀三井寺にて閻魔大王像制作協力、設置

2023 「The god Asklepios」制作協力 熊本総合病院設置

2024 個展「朝露とかみなり」岡山天満屋美術館

2026 個展「かえるところ ころここに」岐阜



TOYA MAHA

戸矢 万葉



SUI 酔

土や砂を焼き、形が生まれたのは、漆と同じ縄文時代です。土は、身近な存在であり、どれだけの月日が経ち現代に科学的な発展が起きようとも、この素材は今日も変わらない姿で私たちの目の前にありつづけ、その形を保つことができます。私は焼成すれば何千年、何万年と残りうる素材を「時の痕跡を残す術」として捉え制作を進めてきました。

陶 / W300 × D250 × H350 / 2023 年

2017 京都市立芸術大学院 美術研究科 陶磁器専攻 修士課程 修了

2016 AAC2016 入選

2020 渋谷バルコ陶器売り場 / OIL GALLERY by 美術手帖 (東京)

2021 物と視点 / kumagusuku (京都)

ECHO / OHARANO STUUDIO GALLERY (京都)

OBJECT / 京都岡崎葛屋書店 (京都)

2021-22 滋賀県立陶芸の森アーティストイン レジデンス (滋賀)

2022 溶ける視点 / FINCH ARTS (京都) ※個展

亀山トリエンナーレ 2022 / 旧館家住宅 (三重)

2023 柔かな風景 西村涼 / 江ノ子島文化芸術創造センター (大阪) ※レジデンス・展覧会キュレーター
セラミック・シナジー展 / 京セラ美術館 (京都) ※予定

国立台南芸術大学 アーティスト・イン・レジデンス (台湾・台南) 予定 ※本採用決定

NAKAI MINAKO

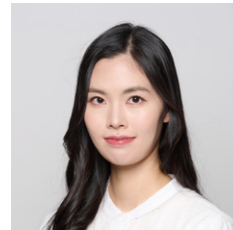
中居 瑞菜子



苺（朱・黒・白）

甘く可憐な苺の姿の奥にある、儚さと生命力。
一瞬の輝きを、漆の深い艶と螺鈿の光に重ね、作品にそっと閉じ込めた。

漆、麻布、金粉、銀粉、螺鈿 / 朱・H145 × W130 × D13、
黒・H140 × W135 × D135、白・H160 × W135 × D130 / 2025 年



1996 東京生まれ
2021 東京藝術大学美術学部工芸科漆芸専攻 卒業
2024 東京藝術大学大学院美術研究科工芸専攻漆芸領域 修了

2021 メトロ文化財団賞 受賞
2022 AAC2022 優秀賞
個展「From Earth to Sky」ギャラリー石榴 南青山・松本
2023 国際漆展・石川 2023 入選
2024 AAC2024 最優秀賞
2025 個展「漆とヨルダン 遥かなる対話」大阪・関西万博ヨルダン館
「超越する漆」日本橋三越

NAKAZAWA MIZUKI

中澤 瑞季



皆、どの人も、誰でも

この作品は木とセラミックを組み合わせて作っている。表面にはファブリックを貼り付け部分的に木の表面を覆い隠す。東京ディズニーランドのイッツアスモールワールドは一見愉快的なアトラクションだが、そのポップな表面の彩からは奥に何かが隠れているような亡霊性を感じる。またこの亡霊性は、幼少期に親しんだ玩具のパッケージやアニメのキャラクターからも感じられる。亡霊のような愉快さは、私たちが生きるためにどれほど必要なのか。貼り付いて取れない表面の彩を、定まらない人の形に重ねて共存させた。

木、セラミック、人工毛 / H2500 × W1600 × D1500 / 2024 年

2024 東京藝術大学 大学院美術研究科 彫刻研究領域 修了

2022 天王洲セントラルタワー 「top fermentation」
第25回 岡本太郎現代芸術賞 入選
AAC2022 入選
第3回 始弘賞
2023 コートヤード HIROO「アトムアートアワード 2023」
東京藝術大学美術研究科 博士審査展
始弘画廊 「彼方の国の模様」
アトムアートアワード 2023 TOYAMA 賞
2024 日比谷ミッドタウン「木と生きる」
始弘画廊 「宙へ向かう面と目」



NISHI TAKATOKU

西 毅徳



Koive

フィンランドの HIAP というプログラムに参加し制作した作品。
タイトル「Koive」はフィンランド語で白樺を意味し、着想はその美しく直線的な幹、風に揺れる葉の動きであり、中でも今回は白樺の葉の動きを、映写フィルムのように捉え、一枚ずつ切り取るというアイデアに至った。スチールバンドを加工し、編むことで膜のような形状を作り、「引っ張りとなわみ」によって生じる造形が、その場所に沿った空間を生み出す。

スチール製巻きバンド、ボルトナット / H3670 × W8200 × D1200 / 2023 年

2021 東京藝術大学 博士後期課程 美術研究科 美術専攻 デザイン研究領域 第3研究室 修了
東京藝術大学 博士後期課程 美術研究科 美術専攻 建築研究領域 構造計画研究室 入学
2023 TOKAS 二国間交流事業プログラム 派遣クリエイター、
HIAP - Helsinki International Artist Programme (フィンランド)
2024 Ateljé Stundars guest artists (フィンランド)

2017 AAC2017 入選
2022 JID AWARD 2022, 大賞, 特別審査員 中村拓志賞, 2部門受賞 (日本)
2023 Red Dot Design Award: Design Concept, 建築部門,
Red Dot 賞 受賞 (ドイツ, シンガポール)
A' Design Award and Competition, 建築部門, 建築構造設計,
SILVER A' DESIGN AWARD 受賞 (イタリア)
LIT LIGHTING DESIGN AWARDS 2023, 建築照明デザイン部門 /
Daylight, 新鋭最優秀建築デザイン賞 受賞 (スイス)
2024 LICC - London International Creative Competition 2023,
BUILD (建築) 部門, Best of 受賞 (イギリス)

NOMURA ERI

野村 絵梨



個展「ユリイカとエウレカ」より

このシリーズでは、生活の痕跡や日常で消される汚れをデフォルメし、かわいくポップに表現することを共通のテーマとしています。この展示では彫刻を床に直接置き、鑑賞者が触れられる形で提示し、彫刻の新たな在り方を探りました。

スタイロフォーム、軽量パテ、ペンキ / 可変 / 2025 年

2017 AAC2017 優秀賞
2021 個展「SILHOUETTE, SCHATTEN」(エースホテル京都、京都)
2023 個展「垢も身のうち」(WADA GAROU TOKYO Lab & AMMON TOKYO、東京)
2024 「第27回岡本太郎現代芸術賞展」(川崎市岡本太郎美術館、神奈川)
2025 個展「ユリイカとエウレカ」(TAKU SOMETANI GALLERY、東京)

2017 AAC2017 優秀賞
2021 個展「SILHOUETTE, SCHATTEN」(エースホテル京都、京都)
2023 個展「垢も身のうち」(WADA GAROU TOKYO Lab & AMMON TOKYO、東京)
2024 「第27回岡本太郎現代芸術賞展」(川崎市岡本太郎美術館、神奈川)
2025 個展「ユリイカとエウレカ」(TAKU SOMETANI GALLERY、東京)

HIRAO YURINA

平尾 祐里菜



寒山拾得 - 枯松・枯笹 -

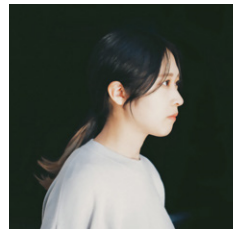
寒山拾得とは、唐代に語られる伝説上の詩僧。登場人物を直接描かず、その人物を象徴する持ち物のみで作品や演目を連想させることを「留守模様」といい、寒山拾得の場合は経巻と箒のみで描き表される。本作では経巻を笹の葉に、箒を枯れた松の葉で寒山拾得を見立てた。枯れた笹には寒山詩の中でも傑作といわれる詩を刻み入れている。

銀、銅、鉄 / H320 × W190 × D170 / 2025 年

2021 広島市立大学 芸術学部 デザイン工芸学科 金属造形分野 卒業

2023 広島市立大学 芸術学研究科 造形計画研究 金属造形研究室 修了

2023 ~ 2026 広島市立大学 芸術学部 デザイン工芸学科 金属造形分野 非常勤助教



2022 AAC2022 最優秀賞

2023 個展 語る草花 (LE METT GALLERY/ 広島県)

2024 個展 語る草花 II (LE METT GALLERY/ 広島県)

大矢賞 / 大賞受賞 (第二回 WISH - 広島市立大学の作家たち展 - / そごう美術館)

2025 立春大吉 初売り謝恩祭 (柿傳ギャラリー / 東京都)

インサイドリアリズム - 超写実絵画と超絶技巧 - (Bunkamura Gallery 8/ 東京都)

美の予感 2025 - Transposition - (高島屋美術館)

アートで綴る 和光歳時記 (和光セイコーハウスホール / 東京都)

2026 なお、そこに在る - 見えないものの輪郭 - (Enishira Stream Gallery/ 石川県)

汲古 個展 (honogra/ 神奈川県)

KOGEI ARTISTS LEAGUE 2025-26 ファイナリスト (MUFG 工芸プロジェクト /

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ)

FURUKAWA CHINATSU

古川 千夏



有線七宝 光彩

私の作品は有線七宝技法を用いて制作しています。従来の七宝には無い可能性を探し、素材や技法の固定概念にとらわれない独自の展開によって、新しい七宝表現にたどり着きました。完成時には研ぎ消えてしまう銀線をあえて研がず強調することによって得られる美や煌めきを表現しています。

七宝、純銀、銅、純銀箔 / H57 × W190 × D190 / 2025 年



2018 広島市立大学大学院芸術学研究科
造形芸術専攻

造形計画研究金属造形研究室 修了

現在 広島県のアトリエにて制作、

七宝作家として活動

2016 AAC 2016 最優秀賞

2025 古川千夏 有線七宝展 (広島三越)

北京国際七宝工芸創作交流展 (北京連合大学手工芸博物館 / 北京)

2026 Japan Mastery Collection にてプロモーション展示 (羽田空港)

古川千夏 有線七宝展 - 煌めきの輪郭 - (東武百貨店船橋店)

古川千夏 有線七宝展 - 煌めきの輪郭 - (あべのハルカス近鉄本店)

""8+1"" ~ 9つの視線 (Cheon Gun Hybrid Complex/ 韓国)

日本の匠展 (博多阪急)

HOASHI ERIKO

帆足 枝里子



碧のあいだ

「土」は大地を連想させます。そして「土」が創り出すヒビや亀裂は、大地が循環する様や時間の流れを感じさせるように思います。ヒビや亀裂を用いて描き出す様々な模様や、一般的な「土」のイメージにはない彩色は、想起されるものの幅を広げ、さらに鑑賞者固有の記憶や経験を通して多くのものに見立てられ、様々な感覚を呼び起こすことができるのではないかと考えています。

ミクストメディア / 2022 年

2012 AAC2012 最優秀賞

2018 ニケ キュレーターズ セレクション #03 帆足枝里子 展

2021 第6回 東京国際美術祭 2021

国際彫刻交流展

METORO ART PASSAGE

2022 第7回 東京国際美術祭 2022

第3回 オーストリア日本現代美術展 2022

METORO ART PASSAGE

2023 第8回 東京国際美術祭 2023

2024 第15回 茨城一陽展 茨城県つくば美術館

第9回 東京国際美術祭 2024

2016 女子美術大学大学院 博士後期課程 美術研究領域 立体芸術研究分野 修了

現在 女子美術大学 美術学科 立体アート専攻 准教授

HOTTA MITSUHIKO

堀田 光彦



Archetype

再生アルミニウムを用いた本作は、既存の原型を複製する従来の鋳造とは異なり、何も無い空間に鋳型を積み重ね、その内部の空洞へ熔融金属を流し込み形態を生み出す。鋳型、金属、熱、重力、時間など制御しきれない空間の中で形は現れる。鋳造における「複製」を問い直し、原型が誕生する根源的なプロセスを探る試みである。

アルミニウム / H260 × W240 × D220 / 2026 年

2016 AAC2016 優秀賞

2018 AAC2018 優秀賞

2022 堀田光彦展 Empathy、

東御市梅野記念絵画館・ふれあい館、長野

2023 天空の芸術祭 2023、長野

2024 「MITSUKOSHI 東京藝術大学 夏の芸術祭 2024」

日本橋三越本店、東京

藝大 in 銀座会、銀座伊東屋、東京

芸術未来研究場展、東京芸術大学大学美術館、東京

2025 東京藝術大学 若手教員有志展、天王洲セントラルタワー 1F アートホール

安曇野 AIR2025 「歩く風景、とどまる気配」、穂高交流学習センター「みらい」、長野

AAC 25 周年記念展、渋谷ヒカリエ 8 階・8/COURT・CUBE1,2,3

2026 「未来の日曜美術館のアーティストは誰だ？」展

一東京芸術大学の領域へ作家たちは挑戦する！一、東京藝術大学 本部等 1F、東京



1991 福岡生まれ

2016 武蔵野美術大学造形学部彫刻学科 卒業

2018 東京藝術大学大学院 美術研究科 工芸専攻鋳金研究分野 修了

2019 東京藝術大学大学院 美術研究科 研究生 修了

長野県東御市地域おこし協力隊

2022 東京藝術大学美術学部工芸科鋳金研究室 教育研究助手

2025 富山大学芸術文化学部 非常勤講師

2026 富山大学 学術研究部 芸術文化学系 助教

HORI SONOMI

堀 園実



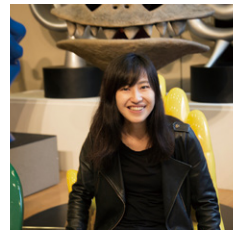
風や水を切る Familiar or Stranger

生きもののように彫刻を立ち現せること、身勝手にその環境に入り込むのではなく先住する生きものたちの隣人のように一漆喰は「呼吸をする素材」とも言われています。その質感は肌に似ていて、親しみを感じる存在として造形を手助けしてくれます。この彫刻は六甲山の自然の中、ここに住まうものたちと一緒に年を重ねています。

琉球漆喰、白セメント、サンゴ砂、鉄 / H1350 × W3600 × D350 / 2025 年

2009 沖縄県立芸術大学大学院彫刻専修 修了
2016 平成 28 年度文化庁新進芸術家
海外研修制度（パリにて 1 年美術研修）

2006 AAC2006 最優秀賞
2018 Emerging2018（トーキョーアーツアンドスペース本郷 / 東京）
2019 めぐるりアート静岡 2019（静岡県立美術館 / 静岡）
2024 静岡県立美術館 移動美術展 リレーション（夢づくり会館 / 静岡）
ファントム Art@ 東静岡（東静岡アート&スポーツ ヒロバ / 静岡）
2025 石に話すことを教える 生きるという（わざ）（瑞雲庵 / 京都）
神戸六甲ミーツ・アート 2025 beyond 準グランプリ
2026 大井川芸術創生譚（ぼいんぼいん山アートトレイル / 静岡）



HONGO YOSHIYA

本郷 芳哉



What is Held

私は「生きるとは何か？」を問うていきたいと考えています。そうした私にとって、彫刻の制作は、世界との繋がりを感じ取り、実感を通して確認し、顕していくことだと感じています。『What Is Held』では、9 年の時間を経て見えてきた変化の連続性の中から、存在をどう捉えるのかについて思索し、その在り様を立ち上げていくことを試んでいます。

木、鉄 / H870 × W1320 × D700 / 2026 年

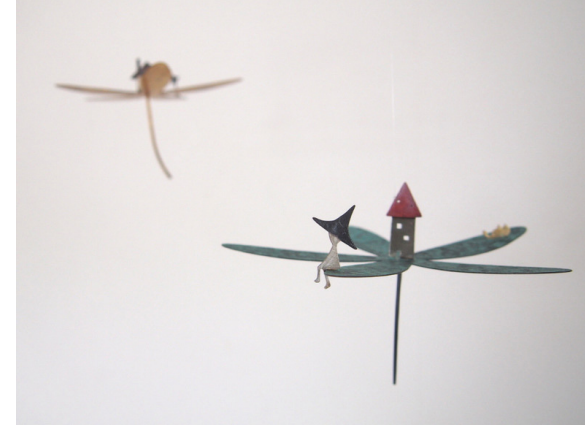
1982 埼玉県生まれ
2007 沖縄県立芸術大学美術工芸学部彫刻専攻 卒業
2009 東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻 修了

2009 AAC2009 優秀賞
2023 「越後妻有 雪の様相 I」（越後妻有里山現代美術館 / 新潟）
2025 「BIWAKO Biennale 2025」（旧伴家住宅（市指定文化財） / 滋賀）
「本郷 芳哉展 在り様」（ギャラリーせいほう / 東京）
コレクション（抜粋）
大阪 DOUBLETREE by Hilton（大阪府） / 三井ガーデンホテル神宮外苑の杜プレミア（東京都） /
笠間日動美術館（茨城県） / RESIDENCE INN HENDERSON Square mile（香港）



HONDA YUSUKE

本田 ゆうすけ



flower

静かな動き、ゆっくりとした動きは、人を惹きつける。少しぼーっと眺めてしまう。日々の中でゆっくりと過ごす時間を作りたい。金属は、重い、硬い、冷たい、というイメージがあってそれとは違い、軽い、柔らかい、温かいという表現を追求している。金属が作り出す色、空気がその世界を表現し、日常を彩るインテリアとして、静かで穏やかな時間、空間を提案していきたい。

銅、真鍮、洋白、ステンレス / H300 × W250 × D250 / 2023 年

2006 東北芸術工科大学 美術科 金属工芸専攻 卒業
同大学 金属工芸 アシスタント
2010 宮城県東松島市にてアトリエ POPPO を構え制作活動
（2016 年に栃木県那須塩原市に移転）
2011 妻のすずきひろみと一緒にアトリエ POPPO として活動する

2004 AAC2004 優秀賞
2009 第 27 回 朝日現代クラフト展 優秀賞（阪急うめだ本店 / 大阪）
2012 個展 ～Sing a moment～（清課堂ギャラリー / 京都）
2016 本田ゆうすけ×すずきひろみ金工展（カンケイマルラボ / 宮城石巻）
2018 POPPOworks「冬のおくりもの」展（ギャルリアルブル / 宮城仙台）
2019 アトリエ POPPO「空をうたうモビール展」（インテリアスタジオアータリア / 高崎）
2021 宮城県仙台市藤崎百貨店にて宮城のモビールシリーズを 6 作品 1 年間通して発表以降、年 4、5 回アトリエ POPPO として各地を個展巡回しています。

MA YUWEI

馬 瑜蔚



イチゴのひめごと

陶磁器を媒介として、感覚と経験のあいだで生成される対話を紡ぎ出す。芸術と日常の接続を問いかけつつ、ポストヒューマンズムの視座から、モノと人間との新たな関係を構築する。陶磁器の機能的枠組みを再考し、その物質性を通じて形式を攪乱し、新たな意味生成の契機となると同時に、観者を含む相互作用的な場を創出する。

磁土・レース・釉薬 / H400 × W400 × D380 / 2025 年

1995 中国四川省生まれ
2019 中国清華大学 美術学院陶磁器専攻 卒業
2021 イギリスロイヤル・カレッジ・オブ・アート
セラミック&ガラス研究科 交換留学
2022 日本京都市立芸術大学大学院美術研究科陶磁器専攻 修士課程 修了
日本京都市立芸術大学大学院美術研究科博士
後期課程陶磁器領域 在学

2018・2019 台湾 FRANZ 光点計画奨学金賞
2019 「BLANC DE CHINE」国際陶芸賞 優秀賞
2024 AAC2024 入選
加藤朝雄国際奨学金財団 第 31 期生
2025 AAC2025 入選
京都花鳥館賞 優秀賞
第 4 回枕崎国際芸術賞 入選
清流の国きふ芸術祭第 6 回きふ美術展 入選



MATSUEDA YUKI

松枝 悠希



「This is EXIT」 1200 white

ありそうでありえない瞬間を作品にすることをテーマに、平面から飛び出す3Dアート制作し、国内外で展示、発表しています。その代表作が、『This is EXIT』シリーズです。非常口のサインからピクトグラムが空間へと飛び出す立体的かつ躍動的な瞬間を作品にしました。

ミクストメディア / H400 × W1250 × D400 / 2025 年

1980 茨城県生まれ
2010 東京藝術大学大学院後期博士課程 修了

2009 AAC2009 入選
2024 Yuki Matsueda Solo Exhibition, SHUN Art Gallery/ 上海
OUT OF THE BOX, TouchGallery/ 香港
Be Ready to Run!, 高島屋 / 大阪
2023 DEPARTURES, Koichiyamamura Gallery/ 東京
BETWEEN, 伊勢丹新宿 / 東京



MIHARA KOUDAI

三原 航大



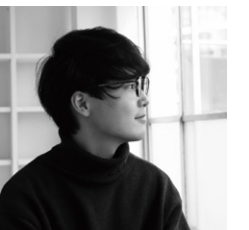
大河を渡る船

人間の中に堆積し続ける記憶や思いを表現したものである。自身が捉える記憶の形をインサイドモールド（仲子）として造形し、ガラスの内部に封入することで移ろいゆく記憶を永遠の存在として留めたいという願いを表現している。外形を船形としたのは経験や記憶を積荷として抱え、人生という旅を続ける人間の姿と船の姿を重ねたためである。

ガラス 弁柄 / H200 × W820 × D150 / 2026 年

1999 兵庫県生まれ
2022 大阪芸術大学芸術学部 工芸学科
ガラス工芸コース 卒業
2023 大阪芸術大学大学院 芸術制作専攻 工芸領域 入学
2024 大阪芸術大学大学院 芸術制作専攻 工芸領域 修了
2026 金沢卯辰山工芸工房 入所

2023 第9回現代ガラス展 in 山陽小野田 三輪審査員賞
2024 AAC2024 優秀賞
Cosmos2024 - 宇宙と生命と人類（アート美空間 Saga）
光のART展 集えー光の森へー（史跡旧崇徳堂）
2025 光のART展 集えー光の森へー（史跡旧崇徳堂）
2026 いりや KOUBO 大賞



MATSUMOTO CHISATO

松本 千里



呼吸の輪郭

これは絞り染めの過程で生まれる布を絞った立体的形状を電動機器によって動かしている作品です。
絞り染めは本来であれば模様を出す技法ですが、私は絞った形を抽出して、古来の技法から新しい表現を展開しています。
絞りをよく見るとしわの入り方など、細かい個性があります。絞りの群れは拮抗や同調し、何か話し込んでいたり、調子によって飛び出したりと生き物のように一粒一粒が呼吸し活動しています。

ポリエステル布、ミシン糸、電動機器 / H1200 × W2700 × D200 / 2023 年

1994 広島市生まれ
2023 広島市立大学 芸術学研究科
博士後期課程 修了

2017 「Tokyo Midtown Award2017」 優秀賞
2018 「第21回広島市立大学芸術学部卒業・修了作品展」 優秀賞・広島市立大学芸術資料館賞上
「2018年度広島市立大学学長奨励賞」 受賞
「呉海軍病院開設130周年記念行事・呉医療センター・中国がんセンター芸術賞」 最優秀賞
2020 「六甲ミーツ・アート芸術散歩2020」 公募大賞 準グランプリ
「第23回広島市立大学芸術学部卒業・修了作品展」 優秀賞
2022 AAC2022 入選
2023 「松本千里展 - 戀 -」 東京・福岡 / みぞえ画廊福岡店・田園調布ギャラリー
2025 「宇宙は白く瞬く」 上海 / Pearl Lam Galleries
「Drifting between the Waves - 波間に揺蕩う -」 神奈川 / セゾンアートショップ



MIYAHARA TAKAHIRO

宮原 嵩広



永く冷たい蛇

「シリコン・ボディ__ケイ素的クエア*」

私たちは、いま「ケイ素」の時代を迎えつつあります。

ケイ素は、人間を含む生命体の皮膚、血管や骨など全ての物体に存在します。生命を支えてきた炭素を超え、半導体の核として機械に知性を宿すケイ素は、人間の知覚や運動、思考までも拡張しはじめています。

パフォーマンス / 可変 / 2026 年

1982 埼玉県生まれ
2003 バンタン映画映像学院スペシャルメイク（特殊メイク）コース 卒業
2010 東京藝術大学美術学部彫刻科 卒業
2012 東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻 修士課程 修了
2016 UC パークレー GTU 神学科ビジティンクスカラー 任期満了

2011 AAC2011 最優秀賞
2020 Sustainable Sculpture (KOMAGOME SOKO / 東京)
2021 ATAMI ART GRANT 2021 Color ATAMI (ニューアカオ / 熱海)
2022 Art walk dojima/nakanoshima (Nakanoshima banks / 大阪)
2023 EASTEAST_TOKYO2023 (Beams Cultuart Booth / 東京)
2024 個展 Syncretic Object 肉とアスファルト (Harukaito by Island/ 東京)
2025 150 年 (東池袋再開発予定ビル 6 棟 / 東京)
2026 xyz+ (Harukaito by Island/ 東京)



MURAKAMI HITOMI

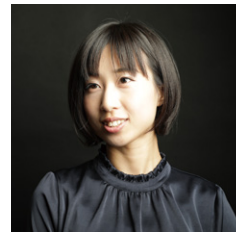
村上 仁美



権能を失くしたソドムの天使

神は既にないのになにまだ世界は続いているということは、祈るより戦わなくては
いけないということ。

陶 / H460 × W320 × D90 / 2025 年



1990 大阪府出身
2016 愛知県立瀬戸窯業高等学校セラミック陶芸専攻科 修了
2017 愛知県立芸術大学大学院彫刻領域 修了

2013 愛知県立芸術大学彫刻専攻優秀学生賞受賞
公益財団法人堀科学芸術振興財団主催第一回 H/ASCA 展最優秀賞受賞
AAC2013 最優秀賞
2017 愛知県立芸術大学修了制作優秀作品賞受賞

MURAKOSHI KEITA

村越 敬太



火は継がれる

焼き物という人類のモノづくりにおける根源的な行為を通して、自分と
一万年前の人類との素材を介した繋がりを実感する。
世界の歴史や時間の流れの中にある物語性を作品として形象化。生命の
進化や文明・文化の誕生と発展などを陶という不可逆な素材で形に残し、
古代遺跡や建造物を「人類の力強い営みの象徴」として、また超自然に
対する「畏敬と探究心の象徴」として表現し、今日に至るまでの歩みと
これから先への繋がりを伝えていく。

陶 / H470 × W550 × D550 / 2023 年

1999 神奈川県生まれ
2022 多摩美術大学美術学部工芸科陶プログラム 卒業
2024 多摩美術大学大学院美術研究科工芸専攻陶領域 修了

2022 AAC2022 入選
神奈川県美術展 入選
「アートアワードトーキョー丸の内 2022」(丸の内オアゾ 1F ○○広場 / 東京)
2023 神奈川県美術展 入選
個展「No Name Land」開催 (多摩美術大学工芸棟ギャラリー / 東京)
2024 「ねんどやきもの劇場 2024」(ふなばしアンデルセン公園 子ども美術館 / 千葉)

MURATA YUKI

村田 勇氣



銭湯山車巡行

栗生はるか (建築家)・三文字昌也 (都市デザイナー)・内海皓平 (建築家)・村田
勇氣 (彫刻家)らによるプロジェクト。廃業銭湯の部材や物品を再構成し、伝統
的な山車を模した「銭湯山車」を制作、独自の祭礼「銭湯山車巡行」を実行して
きた。

現在、金沢 21 世紀美術館・渋谷区立松濤美術館企画展「路上 お邪魔ですか？」
に出展中 (2026 年 11 月 23 日まで)。

ミクストメディア / サイズ可変 / 2019 年

1991 富山県高岡市生まれ
2014 東京芸術大学美術学部 彫刻科 卒業
2016 東京芸術大学大学院美術研究科 彫刻専攻 修了

2015 AAC2015 入選
アートフェア富山 平面・立体部門 グランプリ
2016 第 10 回 秀桜基金留学賞
第 20 回 東京芸術大学社の会賞
アートアワードトーキョー丸の内 グランプリ
2019 第 23 回 岡本太郎現代芸術賞 入選
2021 臺灣國際木彫競賽 當代木彫類組 入選
2026 サンゲツデザインアワード ファイナリスト賞

YAMAZAKI WAKAKO

山崎 稚子



Mountains

京都盆地で周りを見渡すと山がみえる。私の家の近くには大文
字山という山があって、幼い頃から度々散歩に行く感覚で大文字
山に登っていた。

私はいつも山をみていた。しかし、ただ山をみているのとは何か
少し違う。私は多分連続する日々というフィルターを通して山を
みているのだと思う。そして私は山をみながら何か別のものをみ
ている気がする。

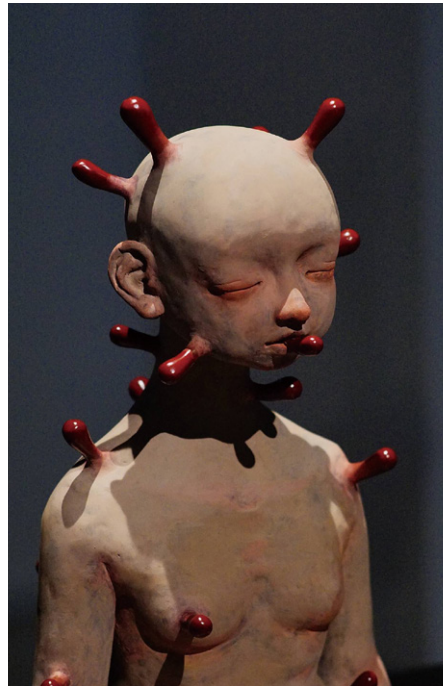
布 / H129 × W79 / 2023 年

1995 京都生まれ
2018 広島市立大学 彫刻専攻 卒業
2020 東京芸術大学大学院彫刻専攻 修了
2021 文化服装学院服飾研究科 卒業
現 在 京都市立美術工芸高校常勤講師

2020 AAC2020 優秀賞
2021 入選「群馬青年ビエンナーレ」
2023 個展「Over the Mountains」(金柑ギャラリー、東京)

YAMADA CHIAKI

山田 千晶



予感

自分の意志とは裏腹に暴れ出す感情達。その膨大なエネルギーを静かに受け入れ、それらを作品へと昇華します。

自身の感情の熱を作品の体温として表現できないかと考え、生き物たちをモチーフに、主に漆を用いて彫刻を制作しています。

漆、水性アクリル樹脂 / H700 × W600 × D550 / 2025 年



1996 京都府出身

2019 富山大学芸術文化学部 卒業

2018 AAC2018 入選

2022 越後妻有大地の芸術祭 2022「里山アートどうぶつ園」/ ナカゴグリーンパーク（新潟）

2023 南砺市いなみ国際木彫刻キャンプ 2023/ 南砺市井波芸術の森公園（富山）

艺术在浮梁 2023/ 浮梁県 涪溪口ダム公園（中国）

MONSTER Exhibition 2023 in San Francisco/ 790 Pennsylvania

Residence（サンフランシスコ）

2024 Cosmos2024 - 宇宙と生命と人類 / アートO美空間 Saga（兵庫）

個展「忘れものを取りに戻るように」/ アートステージ 567（京都）

2025 個展「煌めきをやどして」/ アートO美空間 Saga（兵庫）

個展「雨あとにかかる虹で 夜の空の花火で」/ ギャラリー 1045（富山）

JOSEPHINE H.N. LUI

雷 康寧



The Other Self / もう一人の私

私の作品では、身体を、他者や異なる生命、記憶、感情を受け入れる「器」として捉えています。外から入り込んだものは、ただそこに留まるのではなく、身体の内側に痕跡や重さを残しながら、少しずつ「自己」のかたちを変えていきます。

《The Other Self》では、人間の女性と異なる存在がひとつの身体の中で重なり合い、互いの境界が曖昧になっています。それは完全な変身ではなく、もとの自分と、何か別のものになりつつある自分とのあいだに留まる姿です。さまざまな存在や感情を受け入れ、それらによって変化していくとき、私たちはどこまで「私」であり続けるのでしょうか。作品を通して、自己と他者の境界、そして他者との関わりの中で絶えず形づくられていく自己について考えています。

テラコッタ / H320 × W320 × D320 / 2026 年



香港生まれ

2019 東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻
博士前期課程 修了

2018 AAC2018 最優秀賞

2024 「Shimmer in the flow」石川画廊、東京

2025 「Garden of lovely bones」ギャラリー K、東京

2026 「Forms of Longing — 憧憬のかたち」石川画廊、東京

LIU YUFAN

劉 宇凡



白昼夢Ⅱ

作品は木材、漆など質感が強い素材を使い、素材に新たな意味を刻みこみ、見慣れた植物、景色の断片を作品に入れ、日常の中にある詩情を表現する。

漆、木、螺鈿 / H700 × W500 × D200 / 2025 年

1998 中国河北省 生まれ

2020 北京工業大学 卒業

2025 広島市立大学大学院 修了

2019 そば猪口アート公募展「準大賞」

2020 北京工業大学「優秀卒業作品賞」

2023 社会医療法人清風会芸術奨励展覧会「芸術奨励賞」

神奈川県美術展「ホテルニューグランド賞」

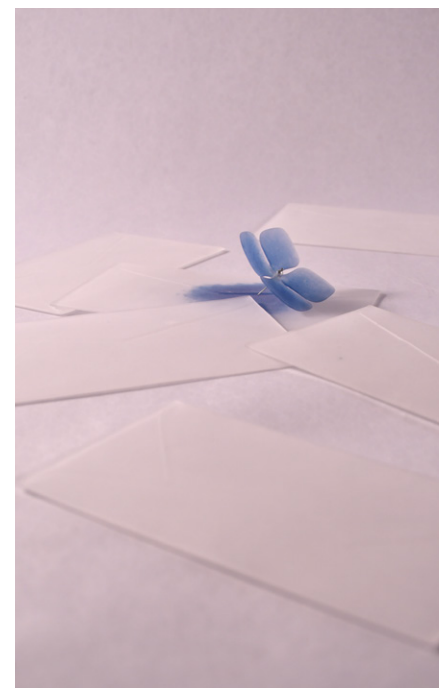
2025 AAC2025 最優秀賞

第 13 回新県美展「奨励賞」



WATANABE SHION

渡辺 紫音



芽生え

私の作品制作において、ガラスとなった生物の形や質感、色調によって、目で見えない生物の周囲に広がる空間を演出することを大切にしています。

鑄造ガラスで混ざる色や透明感、削り込む事で生まれる繊細でシャープな形。私が制作した作品が、多くの人の生活に彩を与える存在になる事を目指しています。

ガラス / H3 × W162 × D90 / 1 枚

H40 × W55 × D55 / 2024 年

1998 大阪府生まれ

2017 港南造形高等学校 卒業（漆芸専攻）

2021 大阪芸術大学 芸術学部 工芸学科 ガラス工芸コース 卒業

大阪芸術大学 大学院 博士前期課程 工芸領域 入学

2023 大阪芸術大学 大学院 博士前期課程 工芸領域 卒業

2021 AAC2021 入選

「NEJA-ism exhibition in museum 2021」参加（福岡アジア美術館）

「KOGEI Art Fair Kanazawa 2021」参加（ハイアットセントリック金沢 610 室）

2022 「NEJA-ism exhibition in museum 2022」参加（兵庫県立美術館）

2023 「SICF24」参加（スパイラルホール）





TOPICS

アート × 建築

金 俊来



2026 年、当社が都内に竣工したマンションのエントランスホールに、金俊来さんの作品「Bliss」を設置いたしました。かつて花街道として人々が行き交った歴史ある土地に建つ本物件では、和モダンを基調としたエントランスに、金さんが桜の花びらをモチーフとした作品を表現しました。

金箔と螺鈿を用いた花びらは、光の当たり方によって繊細に表情を変え、昼夜を問わず空間に美しい輝きを添えます。舞い散る花びらは蝶のようにも見え、軽やかに舞うその姿が、空間に動きと広がりをもたらします。

歴史ある土地の趣と現代的な暮らしが調和するエントランスに、伝統的な素材の美しさを取り入れることで、訪れる人を迎える印象的なアクセントとなっています。住もう方や訪れる人の心を楽しませながら、日常の中に季節の移ろいを感じさせてくれる作品です。

Bliss

日常の喜びを超え、すべてが満ち、欠けるもののない状態。

それは、幸福を「感じる」のではなく、この瞬間そのものを生きている在り方を指します。

漆、金箔、螺鈿 / H1100 × W3500 × D80 / 2026 年

金さんの現在の活動状況は 16 ページに掲載しています

AAC2025 入賞者

昨年度 AAC で入賞した新人アーティストをご紹介します。



最優秀賞



LIUYUFAN

劉 宇凡

緑の詩

作品は木材、螺鈿、漆など質感が強い素材を使い、素材に新たな意味を刻みこみ、見慣れた植物、景色の断片を作品に入れ、日常の中にある詩情を表現しています。人々はいつも新しい物に好奇心を持っているにもかかわらず、日々の暮らしで慣れ親しんでいる物の美に気づきにくいものです。よく見れば日常にも小さな美があり、感性をとぎすますことで同じ道を歩くたびに新しい旅になります。日常を見つめ直し、ありふれた物の美を見出し、幸せになることを願って制作しました。

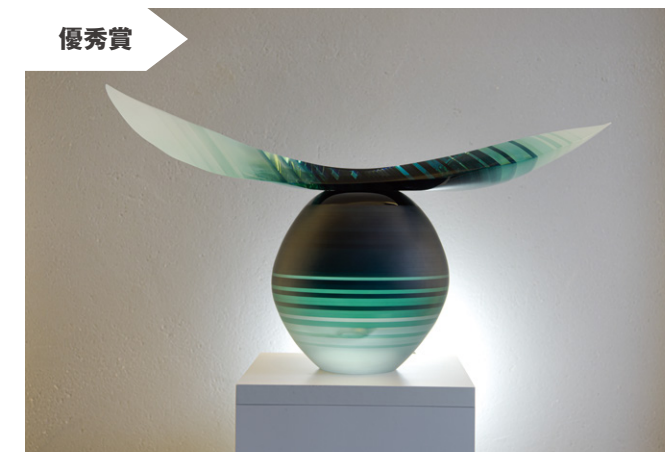
漆、木、螺鈿 / H1000 × W550 × D350 / 2025 年

戸越プロジェクト 設置



劉さんの現在の活動状況は 36 ページに掲載しています

優秀賞



SUZUKI MAYUKO

鈴木 万佑子

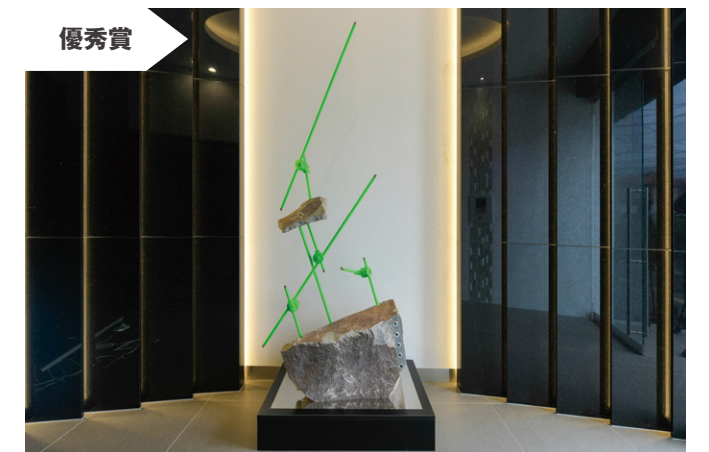
Sprouting glass moon

未来に向けて葉を広げる若葉と、風や自然のゆらぎをイメージした作品です。《Sprouting grass moon》は、草木が芽吹く 4 月の満月を意味します。瑞々しい萌芽の風と静かな月光で、帰る人、訪れる人をやさしく迎えます。積層した板ガラスを削り、視点の動きに応じて変化する光の階調を表現。深い暗さから透明感へ移ろうガラスの表情が、エントランスを行き交う人に、心を整えるような心地よさをもたらします。

ガラス / H300 × W600 × D250 / 2025 年

鈴木さんの現在の活動状況は 21 ページに掲載しています

優秀賞



SASAKI RIKU

佐々木 陸

alternative 02

「繋ぐ」「広げる」をテーマに、建築素材と構造をモチーフとした立体作品です。中心の石は住宅建設の基礎であり、人の暮らしの原点を象徴しています。石と緑の構造体をボルトやジョイントで接続することで、人工と自然の共存を表現しています。空間へ伸び広がる構造体は、人と人とのつながりや暮らしの可能性を象徴。鮮やかな緑によって都市と自然の境界を曖昧にし、共生のかたちを問いかけています。

石材、金属 / H1500 × W600 × D500 / 2025 年

